

【022】2015年のパリ協定採択から5周年である2020年12月に、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局、英国政府、フランス政府の共催で、イタリア政府とチリ政府が協力の政府間国際会議「」がオンラインで開催された。これは国際交渉ではなく、国際的な発表の場であり、政府首脳や関係機関からの自主的なコミットメントの発表が相次いだ。同サミット開催時でのコミットメントも含めて、パリ協定に基づく国別削減目標(NDC)を引き上げたのは全部で71ヶ国に達した。

「」に入る語句を選びなさい。

- 1 地球サミット
- 2 持続可能な開発に関する世界首脳会議
- 3 ストックホルム会議
- 4 国連気候変動サミット
- 5 気候野心サミット

【023】2021年8月9日、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)から第6次報告書が発表された。

産業革命前(1850～1900年)から近年の間に観測された気温上昇量は1.06°C、同じ期間に人間活動の影響でもたらされた気温上昇量は1.07°Cされた。このままいくと2040年までに産業革命前と比べて【】°C上昇する可能性が極めて高いと報告された。

【】内に入る数字を選びなさい。

- 1 1.25
- 2 1.5
- 3 1.66
- 4 2.0
- 5 2.3

【024】2021年10月31日から11月13日まで、当初の予定から1年延期された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)が開催されたイギリスの都市はどこか。

- 1 マンチェスター
- 2 コーンウォール
- 3 エディンバラ
- 4 カーディフ
- 5 グラスゴー

【025】環境に関する以下の文章のうち、誤っているものはどれか。

- 1 日本で「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」（「フロン排出抑制法」）が令和元(2019)年6月5日に改正され、令和2(2020)年4月1日に施行された。
- 2 2019年12月、スペイン・マドリードで開催された COP25 の場において、日本の環境省はフルオロカーボン（フロン）のライフサイクルマネジメントに関するイニシアティブ(IFL)を設立した。
- 3 国と地方が協働・共創して 2050 年までのカーボンニュートラルを実現するため、地域の取組と国民のライフスタイルに密接に関わる分野を中心に脱炭素方策を議論する場として、「国・地方脱炭素実現会議」が開催された。令和2年12月から計3回開催し、令和3年6月の第3回で「地域脱炭素ロードマップ」が決定した。
- 4 世界で普及が進んでいる ESG 金融、この ESG とは E=Environment(環境)、S=Social(社会)、G=Goal(目標)の頭文字を取ったものである。2020年の日本の ESG 投資額は 2兆8740億ドル(約320兆円)で、前回調査の18年から32%増加した。
- 5 政府は 2019 年、第四次循環型社会形成推進基本計画を踏まえ、資源・廃棄物制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化、アジア各国による廃棄物の輸入規制等の幅広い課題に対応するため、3R+Renewable(再生可能資源への代替)を基本原則としたプラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略「プラスチック資源循環戦略」を公表した。

【026】海洋汚染等で問題となっているプラスチックに関する以下の文章のうち、誤っているものはどれか。

- 1 日本のプラスチックごみ排出量は約850万トン(2019年)であり、うち約40%が使い捨てプラスチック容器である。これは1人当たり年間32kgを排出しており、アメリカに次いで世界第2位の多さである。
- 2 2019年に開催された G20 大阪サミットにおいて、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を G20 大阪首脳宣言の中に盛り込んだ。
- 3 「プラスチック資源循環戦略」において、2030年までに使い捨て(ワンウェイ)プラスチックを25%減らし、容器包装は6割をリサイクルかリユースすることとした。またバイオマスプラスチックの利用も最大限高めることとした。
- 4 使い捨てプラスチックの削減の一環として、2020年7月からレジ袋の有料化、2022年4月から小売業や飲食店、宿泊業、クリーニング業などがフォークやスプーン、歯ブラシ、ハンガーなど12品目の削減目標設定や提供方法の見直しをすることとなった。
- 5 「有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するラムサール条約」が2019年に改正され、規制対象物資に「汚れたプラスチックごみ」が追加された。

## 【022】 5 気候野心サミット

気候野心サミットを受け、24カ国が排出実質ゼロまたはカーボンニュートラルを達成するための新たな約束、戦略または計画を発表した。

- 1 1992年6月3日から14日までの間、ブラジルのリオデジャネイロにおいて開催。「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」への署名が開始されるとともに、「環境と開発に関するリオ宣言」、「アジェンダ21」及び「森林原則声明」の文書が合意された。
- 2 2002年8月26日から9月4日まで南アフリカ共和国のヨハネスブルグで国際連合により開催された。ヨハネスブルグ・サミット、地球サミット2002、第2回地球サミット、環境開発サミット、持続可能な開発に関する世界サミット、リオ+10などとも呼称する。
- 3 1972年6月、地球環境の破壊の進行に対して対策を協議した最初の国際会議。
- 4 世界各国の首脳が地球温暖化対策について話し合う国際連合の会議のことで、過去に何回か開催されている。

## 【023】 2 1.5°C

人間活動が原因なのは「疑う余地がない」と明確に示された。

日本の環境省は「気候危機」を宣言した。

## 【024】 5 グラスゴー

グラスゴー気候合意が採択され、産業革命前からの気温上昇を1.5°C未満に抑える努力義務を参加国全ての公約とした。石炭火力発電を「段階的に廃止」する予定だったが、インドの反発により「段階的に削減」とされた。

ESG=E=Environment(環境)、S=Social(社会)、G=Governance(企業統治)

●地域脱炭素ロードマップ

・足元から5年間に政策を総動員し

①2030年度までに少なくとも100か所の「脱炭素先行地域」をつくる

②全国で、重点対策を実行(自家消費型太陽光、省エネ住宅、ゼロカーボンドライブなど)

・3つの基盤的施策

①人材・情報・資金の継続的・包括的支援スキーム構築(地方支分部局が水平連携して支援実施)

②ライフスタイルイノベーション(排出見える化や、ふるさと納税の返礼品としての地域再エネ活用など)

③ルールイノベーション(風力発電の環境アセスの最適化や、地熱発電の開発加速化など)

モデルを全国に伝搬し、2050年を待たずに脱炭素達成(脱炭素ドミノ)

3R=Reduce:リデュース(ごみを減らす)・Reuse:リユース(繰り返し使用する)・Recycle:リサイクル

Renewable=再生可能

ラムサール条約 → バーゼル条約

ラムサール条約は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」である。

環境に関する条約はチェックしておかないといけない。

バイオマスプラスチック=バイオマス(植物などの再生可能な有機資源)を原料に作られたプラスチック材料